

**水産環境保全委員会シンポジウム**  
**「地震・津波から3年後の東北地方太平洋沿岸域の現状**  
**—天災による自然攪乱と修復による人為的攪乱—」の開催について**

水産環境保全委員会委員長 大嶋雄治

記

**主催** 日本水産学会水産環境保全委員会

**共催** 日本水産学会東日本大震災災害復興支援検討委員会, 東北マリンサイエンス拠点  
形成事業

**日時** 平成26年3月27日(木)9:00~17:20

**場所** 北海道大学水産学部(函館)

**企画責任者** 大越和加(東北大院農)・清野聡子(九大院工)

**企画の趣旨**

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震と津波により、太平洋沿岸域は大きく攪乱された。そこでは、未曾有の攪乱による影響が現在に至るまで継続して見られ、不安定な状況が続いている。一方、沿岸域では修復が始まり、また、中断していた増養殖の一部が再開した。環境省は東北地方に三陸復興国立公園を創設する。そして、大震災後の海岸保全については、様々な議論が展開されている。地震・津波から3年が過ぎた現在、はたして沿岸域はどのような状況なのだろうか。

沿岸海洋環境をキーワードに、漁場、底質、生物、増養殖、海岸保全等について、自然攪乱と人為的攪乱という観点より現況を理解し、課題を見つめるシンポジウムを企画した。

**プログラム**

09:00-09:05 開会の挨拶

水産環境保全委員会委員長

09:05-09:10 趣旨説明

大越和加(東北大院農)

座長 大越和加(東北大院農)

1 沿岸海洋環境と海洋生物の推移・変化

09:10-09:40 東日本大震災後の宮城県沿岸域底質より得られた抽出物の変化について

山口敏康(東北大院農)

09:40-10:10 河口域, 干潟, 湾内の海洋環境と生物の変化—蒲生干潟と女川湾を例として—

大越和加(東北大院農)

10:10-10:40 アサリと食害外来巻貝の地震後の生息状況—外来生物は絶滅したのか?

大越健嗣(東邦大理)

10:40-11:10 有毒有害プランクトンの発生状況—気仙沼舞根湾調査—

西谷 豪(東北大院農)

11:10-11:40 東日本大震災が岸壁の潮間帯生物相にもたらした影響と新たな課題

加戸隆介(北里大水)

11:40-13:00 お昼

## 2 沿岸漁場環境と増養殖生産の現状と課題

13:00-13:30 東北内湾域の漁場環境—津波がもたらした底質・底生生物の変化—

神山孝史(水研セ東北水研), 内記公明(岩手県水技セ),  
西 敬浩(アルファ水工), 八木 宏(水研セ水工研)

13:30-14:00 岩手県における養殖業及び磯根漁業の現状と課題

大村敏昭(岩手県水技セ)

14:00-14:30 福島県の漁場環境と漁業の現状と課題

和田敏裕(福島県水試)

座長 清野聡子(九大院工)

## 3 三陸復興国立公園の創設

14:30-15:00 三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興

浪花伸和(環境省自然環境局国立公園課)

## 4 海岸保全に関する課題

15:00-15:30 巨大防潮堤の代替案の実現は可能か?

清野聡子(九大院工)

15:30-16:00 海岸管理のあり方の検討(仮題)

五道仁実(国交省海岸室)

16:00-16:30 土木計画の観点からみた防潮堤問題

谷下雅義(中央大理工)

16:30-16:45 休憩

16:45-17:15 総合討論

17:15-17:20 閉会の挨拶

水産環境保全委員会副委員長

#### 問い合わせ先

〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7

東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科 鈴木直樹

TEL・FAX (03)5463-0565 e-mail [naoki@kaiyodai.ac.jp](mailto:naoki@kaiyodai.ac.jp)